

自分の力を知り、学習スタイルを確立せよ！

1年生のみなさん、高校生活最初の中間考査が終わりましたね。結果はどうでしたか。
2年生のみなさん、準備は万端でしたか。
学習の成果が発揮できた人もいれば、思うような結果が出なかった人もいます。「為せば成るノート」を見ながら、自分の学習スタイルや生活リズムを見直してみましょう。

1. “できる受験生”になれる高校3年間の過ごし方

◇入試に近道はない。3年間の積み重ねで自分だけの強みを手に入れよう。

1・2年生のみなさん、大学受験対策は3年生になってからやるものと思っていませんか？
それは大きな間違い。高校に入学したときから、進学への道は始まっているのです。

◇スモールステップを踏もう。

高校卒業後の進路は「3年生になってから」ではなく「3年間かけて」決めるものです。3年間の集大成として納得いく進路を決められるよう、1年次からスモールステップを踏んでいきましょう。

1年次から社会に対して敏感にアンテナを張り、学問と社会の関わりについて理解すること。視野を広げて将来のビジョンを考えつつ、2年次には学部学科を絞り、学びたい学系を考える延長線上で志望校群を見つけましょう。高校3年生の「ゼロ学期」と呼ばれる2年次の冬には受験勉強を始め、3年次には周到なプランニングに基づいて計画的に受験学力を伸ばしていく流れです。

◇基本的生活習慣と学習サイクルを確立する。

部活動と勉強を両立できるよう、時間の使い方を工夫しましょう。夕食・勉強開始・就寝の時間を一定にする「3点固定」を心がけると生活リズムを整えやすくなります。

予習→授業→復習という黄金の学習サイクルを確立し、勉強が「作業」にならないよう、脳をフル稼働して机に向かう習慣をつけましょう。教科によって軽重をつけず、すべての科目に全力で取り組む「全方位主義」がいいですね。

◇自分を知り、社会を知り、学問を知る。

目先の得意・不得意科目によって進路を決めるのではなく、自分を知り、社会を知り、学問を知って選択しましょう。

自分が得意なこと、続けられること、人よりもうまくできること（can）は何でしょう？自分がやってみたいと思うこと、意志を持って取り組めること（will）は何でしょう？自分が大きな価値を感じ、使命感を持って取り組んでみたいこと（must）は何でしょう？ can/will/must という3つのキーワードをヒントに、自分の内側＝興味関心のありかに目を向けましょう。

同時に、自分の外側＝社会に対しても視野を広げたいですね。各学部学科の学びは社会とどうつながっているのか。就きたい仕事や学びたい学問分野は、社会にとってどのような意味があるのか。学びたいことの社会的意義を考え、具体的な進路ビジョンを明らかにしていきましょう。

◇探究学習は、進路意識の向上にもつながる。

探究学習とは、生徒自らが問いを立て、その課題の解決に向けて情報を集めて分析したり、周囲の人と協働したりしながら進めていく学習活動のことです。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」が、らせん階段状に続いていく学習をイメージすればいいでしょう。

終身雇用制の崩壊、デジタル化やグローバル化の進展、AIの急速な台頭など、社会の変化は激しさを増し、私たちの周りには課題が山積しています。未知の課題に対応するには“指示待ち”ではなく、自分なりに考え、問題を見つけ、答えを出す「探究」的な姿勢が大切になってくるのです。

探究学習に積極的に取り組めば、学習意欲や自己肯定感が高まります。社会との関わり方を考えることにもなるので、進路意識も向上します。探究学習で身につけた主体性、思考力や判断力、表現力は、学校推薦型選抜や総合型選抜で自分をアピールする材料になります。

（蛍雪時代 2024年4月号付録「進学プランニングBOOK」より）

2. 「学問」分野から自分の興味・関心を考えてみる

◇学部・学科とは？学群・学域って？

「学部」とは大学において、専門的な教育や研究を行う大きくくりな組織のこと。この学部の下に、さらに細分化・専門化した「学科」が設置されるのが一般的。大学によっては学科の中をさらにコースや専攻科などに分ける場合もありますし、学科組織のないところもあります。また、筑波大などは学群、金沢大などは学域・学類制をとっていて、従来の学部における複数の分野にあたる広い範囲をカバーする組織となっています。幅広く学びたい学生のニーズに応えた組織の形といえます。

◇学問の分野とは？

みなさんの高校でも2年生から文系・理系のクラス分けをするところも多いでしょう。文系・理系に分けて対策を行うことは、現在の入試方式を考えると理にかなっています。しかし、学びたいことを見つけるときに文系・理系の考え方に偏りすぎると、大事なことを見落とす恐れがあります。まずは大学で学ぶ学問の全体像を、フラットな視点で見てください。

下表は学問を4つのカテゴリに分けています。対象とする物事に応じて3つの領域に大別しました。「科学」といえば理学・工学などを指す風潮もありますが、どの領域も人間の心や言葉、社会の動き、自然現象まで未知なるものを科学的な目でとらえ、読み解く学問です。

人文科学系	文学、哲学、史学、心理学、語学、文化学など 心や言葉、行動、文化などを通じて「人間」そのものを考える学問領域
社会科学系	法学、経済学、経営学、商学、社会学など 人文科学系が人間そのものを考えるのに対し、人間が作り出した「社会」の働きやしぐみについて探求する領域。
自然科学系	理学、工学、農学、獣医・畜産学、医学、歯学、薬学、保健学、看護学など 自然界のあらゆる原理を解明する、あるいは解明された原理を人間社会のために活用するための学問。
その他	教育学、教養学、人間科学、福祉学、家政・生活科学、体育・健康科学、芸術学など 上記の枠組みにあてはまらない新しい学問や、複数の学問領域が重なり合う「学際的」領域。

◇「学際」と文理融合の進展

学問が従来の領域を超えて発展することを「学際化」といいます。たとえば心理学は文系分野として分類されていますが、看護・医療の現場では心とからだの問題は不可分で、大学でも医療・保健学と心理学を並行して学ぶことができるところが増えていきます。

またICTの急激な発展により、人文、社会、自然科学のあらゆる事象をデータで読み解こうという「データサイエンス」が成長を遂げています。これらのような「文理融合」した学部・学科がどんどん増えており、「データサイエンス」「情報工学」は、ここ数年、大学のトレンドになっています。

このように、文系・理系は明確に区分されるものではなく、学問は互いにつながっていることを念頭に、自分のやりたいこと、興味あることを突き詰めていきましょう。

◇文理選択はどのようにするべき？

数学が苦手だから文系、国語が嫌いだから理系、といったように、教科・科目の得意・不得意で決める人が多くいますが、ここで「がんばって苦手教科も克服してみようかな」という考えもしてみましょう。

一般に、経済学部や商学部は文系学部とされていますが、入学後に数学を使う機会が多くあります。心理学科も文学部に含まれる大学が多いですが、統計データ処理などの数学的要素が求められます。これらの学部・学科は数学以外の科目で受験できるところも多いですが、入学後のことを考えると数学の勉強もしておきたいところです。また、看護・医療系学科は、人文科学系や社会科学系の知識が必要になってくることもあります。入試に必要ないから、という観点だけで選ばないようにしたいものです。

(蛍雪時代 2024年4月号より)

